

# 令和3年度

## 福祉行政にかかわる指定管理者評価委員会 議事録

- 日時：令和3年8月2日（月）午後1時30分から午後3時40分
- 場所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室
- 参加  
出席委員：5名 小野委員、北林委員、桐原委員、平田委員、中川委員  
欠席委員：なし  
事務局：健康福祉総務課  
所管課：障がい福祉課、人生100年推進課、こども総務課  
傍聴者：なし

### 【次第】

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 本日のスケジュールについて
4. 議題  
各施設の事業報告及び指定管理者評価（案）について  
（1）障害福祉センター松風園について  
（2）障害者自立支援センターについて  
（3）まごころ地域福祉センターについて
5. その他
6. 閉会

\*\*\*\*\* 以下、要旨記録 \*\*\*\*\*

1. 開 会
2. 委員長あいさつ  
小野委員長よりあいさつ。
3. 本日のスケジュールについて  
事務局より本日のスケジュールを説明。
4. 議題  
各施設の事業報告及び指定管理者評価（案）について

今年度については、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から会議時間の短縮を図るため、評価委員より事前に質問や意見を集約したうえで、各施設の指定管理者より事業報告を行った。

#### (1) 障害福祉センター松風園について

○資料1-1「障害福祉センター松風園事業報告書」及び当日配布された「令和2年度大和しらかし会事業報告確認事項及びご質問等について」、「社会福祉法人大和しらかし会 令和元年度評価委員会における課題」に基づき指定管理者より事業報告を行った。なお、評価委員からの事前意見と指定管理者による説明は以下のとおりである。

・苦情受付に「第三者評価、自己評価、また親の会からの要望を踏まえ」とあるが、その具体的な内容について

内容としては、職員の対応や施設の老朽化・規模、母親のサポート、コロナ禍で来園回数が減少していること、親同士の交流機会の提供、親子通園の意図の確認などがあつた。

・「パパ散歩」の行事名を「親子散歩」に変更することの提案について

パパ散歩の名称は、父親に来園してもらうことで、お子さんへの理解を深める機会の提供や父親同士の繋がりを意識できるように対象を明確に父親とした。ひとり親などに配慮して、「親子散歩」の表記にすることについては、今後、ご家族の意見を聞き取りしながら検討したい。

・日中一時支援事業における人材の確保について

日中一時支援事業スタッフに、勉強会や現場見学などの開催を通じて、事業により関心をもってもらうことで人材の確保に努める。

・理学療法の令和3年1月分実績が増加した理由について

コロナ禍で1月は散歩をする機会が多くなり、他の運動をする機会が少なくなっていることから、理学療法士と相談して訓練の一環として運動サーキットを実施したことで、理学療法における1月の個別対象人数と個別延訓練人数の実績は他の月と比べ増加した。

・新型コロナウイルス感染症の影響により中止した行事等のその後の対応について

4月から6月の登園の自粛や登園時間の縮小をしている期間には、お子さんやご家族に対して電話による在宅支援を実施した。その他の行事等を実施した際は、コロナの感染予防対策を講じ、開催規模の縮小や開催手法等を変更した。

・空調設備復旧工事（準備工事）に関する支出の有無について

支出はなかった。

・新型コロナウイルス感染症の影響で予定していたが実施できなかった事業について

放課後等デイサービスでの調理実習や職員研修、親睦会等を中止した。

#### <質疑応答>※以下、指定管理者は指定と表記しています。

委員：苦情受付について、第三者評価アンケートの結果を付け加えることや具体的な内容、今後のことを記載した方が、より理解が深まる。日中一時支援事業について、求人が少ないのであれば、学生ボランティアやアルバイトを活用してはどうか。また、パパ散歩の表記について、ひとり親に配慮し、パパ散歩は父親に参加

してほしい等の説明があると良い。

委員：保護者との連携について、家庭訪問を22回行ったと記載されているが、家庭訪問の対象は全園児か。

指 定：通常は前期と後期で家庭訪問を2回実施しているが、コロナ禍のためコロナの感染対策を講じたうえで後期のみ家庭訪問を実施し、家庭訪問の対象は年長児に絞った。

委員：年長児の家庭以外からは家庭訪問の希望を募ったか。

指 定：家庭状況が切迫し、緊急性があるケースは訪問をした。

委員：在宅園児への支援等は電話で個別に対応していると思うが、その他にも取組を行ったか。

指 定：前半は在宅支援を中心に実施し、家庭訪問では療育的な支援を実施した。本人だけでなく家族の方が落ち着いて過ごせることをテーマに家庭訪問を行った。

委員長：家庭への支援のために、多機関協働が必要になってきていることを言及しているが、これはとても大事なことで、目の前にいる利用者を通して家庭を見ることに心掛けていただきたい。目の前にいる利用者は、安定して過ごせる家庭環境にいるか、または、安定して育つことができる家庭環境にいるかは大事なことだ。現在、複数の福祉課題を抱える世帯が増えており、課題を解決するためには、多機関協働が当然になっている。松風園側が関係機関を集めてケースカンファレンスを開催する等の積極的な動きがあっても良いのではないか。そのことについても詳しく記載をしてほしい。

#### ＜評価案についての意見交換＞

委員：収支決算の状況について、収入に指定管理料がない場合は、収支決算がマイナスになることが記載されているにも拘わらず、安定した財務状況と評価したのはどのような理由からか。

所管課：コロナ禍においても全体の事業収入は減少しておらず、コロナの影響によって発生した支出があっても効率的な運営を行った結果、全体の収支はプラスになったことから安定した財務状況と判断した。

委員：職員の資質向上のために研修会を実施し、その中で、人権について学ぶことのみを取り上げて評価した理由はあるか。人権を学ぶことで具体的にどのように業務に活かされたか、目に見えた結果が記載されていない。具体的な結果があれば、そのことを記して評価し、なければ記載しない方が良いのではないか。

所管課：昨今、施設の研修の中で、人権について取り上げる流れがある。指摘いただいたとおり、記載する内容については検討する。

委員：第2松風園の事業運営については、コロナの影響で大変だったと思うが、コロナの影響で苦労しながら事業を実施したことに対する評価がない。第1松風園は何点か評価されているが例年並みの評価がされている。表記を工夫した方が良いのではないか。

所管課：コロナ禍でも障害者支援施設は本人や家族にとって必要不可欠なサービスであり、

また、松風園はコロナの感染者を出すことなく在宅支援に取り組むことができた。その点も踏まえて評価を検討したい。

委員：職員の資質向上について、コロナの影響で集合研修が開催されず、オンライン研修に参加したことやオンラインのための機器を購入したことなどのコロナ禍での取組を記載した方が良い。委員長が指摘した視点を取り入れ、目の前にいる子どもを通じて家庭の複合的な課題を支援することができるように、会議等を実施する際は、施設が中心になって様々な職域に広げる努力が必要等の記載を付け加えると、発展的な内容になるのではないかと。

所管課：提案いただいた内容も含めて具体的な取組を確認のうえ評価したい。

## (2) 障害者自立支援センターについて

○資料2-1「障害者自立支援センター事業報告書」及び当日配布された「令和2年度事業報告概要」に基づき指定管理者より事業報告を行った。なお、評価委員からの事前意見と指定管理者による説明は以下のとおりである。

### ・人件費の減少理由について

正規職員1名が年度の途中で退職したが、職員配置基準を満たしており、人員の補充はしなかったため人件費が減少した。

### ・保健衛生費の増加理由について

就労移行支援事業で実施した健康相談を、外部の訪問看護ステーションに業務を委託した。その費用を業務委託費として保健衛生費に計上したため、保健衛生費が予算に対して増加した。

### ・相談員の量的質的確保の改善策について

量的確保については、現状、配置基準以上の職員を配置しており、また収支の関係もあるためこれ以上配置することができない。そのため、業務の効率化などにより職員の負担軽減を図る。また、職員の経験年数に応じた各種研修の参加や主任相談支援専門員を基幹相談支援センターに配置するなど質的向上を図る。

### ・相談支援事業実施状況の表記内容について

次年度から相談内容の内訳についても報告を検討する。

### ・スマートフォン操作の支援について

スマートフォンの使用方法や設定方法等の操作支援は行っている。

### ・喫茶コーナーの設置場所について

地域の方に自立支援センターを知ってもらうことと、立ち寄ってもらうために喫茶コーナーを本センター内に設置している。地域の方が利用し易くなるように環境改善やアプローチ方法を検討する。

### ・就労移行（訓練）支援事業における健康相談の機会の提供について

事業所から強く実施を望む意向があり、十分なコロナの感染予防対策を講じたうえで、健康相談を実施した。

### ・書類の誤送付の再発防止策について

書類の誤発送を防ぐため、個人情報を含むものについては発送前に複数人の眼で確認をしている。個人情報を取り扱っている事業者としてはコストをかけてでも個人情報の流出防止を最優先としたい。

#### <質疑応答>

委員：毎回同じ職員が書類やメールの誤発送をするのか。同じ職員が誤発送を繰り返すのであれば担当変え等をするべきである。民間企業であれば書類送付等のダブルチェックは最重要のときにしか行わないと思う。ダブルチェックを毎回すると気の緩みに繋がるのではないか。

指 定：郵送物の発送については、ダブルチェックに加え、窓付封筒を使うことで誤発送を防止している。コロナ禍でオンライン研修会を実施する機会ができたことで、パソコンの操作が不慣れな職員もいるため、マニュアルを作成したが、引き続きメールの誤送信等については、防ぐように注意をして取り組みたい。また、時間はかかるがバランスを取りながらミスがない方法を考えたい。

委員：オンライン面談を実施する場合、利用者がオンラインを活用することができる環境であることが必要だが、対応はいかがか。

指 定：面談を希望する方の内、スマートフォンを持っている方は、比較的オンライン面談を実施することができ、スマートフォンを持っていない方で日中事業所に通っている方は、昼間に事業所の機器を利用してオンライン面談を実施している。オンラインに対応することができない利用者については、十分なコロナの感染対策を講じたうえで必要に応じて直接面談を実施している。

委員：主に職員がオンライン会議に参加しているのか。

指 定：連携事業として当事者団体などが集まる会議では、職員のほか、学校、事業所、病院などの関係機関が参加している。

委員：オンラインの活用に伴い、職員等の環境を整えていく必要があると思う。会議等をオンラインで実施するメリットはあるが、出席しやすくなる分、時間の拘束等のデメリットも感じる。オンラインを利用することができる環境等を整えるための費用を負担することは事業所だけでは難しいところであり、市からの支援もあれば良いと思う。

#### <評価案についての意見交換>

委員：コロナの影響で、喫茶コーナー以外の行事等が休止になったにも拘わらず、地域交流事業で昨年度と同様の評価をしたのはどのような理由からか。

所管課：地域交流事業については、コロナの影響で喫茶コーナー以外は全て休止になったが、コロナの感染防止策を講じたうえで、喫茶コーナーの利用を再開したことを評価した。

委員：十分にコロナの感染防止策を講じて、早めに喫茶コーナーを再開している。そのようなことを評価する書き方をした方が良い。

所管課：意見を踏まえ、表記については検討する。

委員：評価の視点1の地域交流事業に、「例年は施設を利用した」と記載をされている

が、今回の評価は、令和2年度のことなので例年と記載すると紛らわしくなる。もし記載するのであれば、令和2年度は中止になったことを記載する方が良いのではないか。また、評価の視点1 地域連携事業の評価について、就労移行の説明会や就職時の訪問、就職支援でもオンラインを活用しており、令和2年度に新たに実施したこととしてオンラインの活用を評価した方が良いのではないか。

所管課：オンラインの活用やコロナの感染防止策の取組を踏まえて評価を検討する。

### (3) まごころ地域福祉センターについて

○資料3-1「まごころ地域福祉センター事業報告書」に基づき指定管理者より事業報告を行った。なお、評価委員からの事前意見と指定管理者による説明は以下のとおりである。

#### ・老人デイサービスの利用者が増えない原因について

本センターの老人デイサービスの利用者が増えない原因の一つとして祝日に営業を実施していないことがある。また、デイサービスの利用率については、介護度が高い利用者は入退院を繰り返されることが比較的多く、利用を休止することがある。その場合は新規の利用者を入れられず空席になってしまうことがあり利用率に影響している。一方、老人デイサービスセンターにおいては、コロナ禍で市の老人福祉センターやふれあいプラザの大浴場が利用できないため、自宅で入浴することが危ない方のデイサービスの利用が増えている。提供できるサービスも含め、ケアマネジャーに本センターの老人デイサービスを勧めてもらえるように周知を図る。

#### ・要介護5の方のデイサービスの利用が増えた理由について

コロナの感染が発生した他の施設等で、サービスの提供を受けられなくなったショートステイの利用を希望する方が、急遽やむを得ずデイサービスを利用したことが増加の一因と考えている。

#### ・地域包括支援センター職員が退職した理由について

退職の理由は、想像していたよりも仕事が大変だったことや待遇面の条件が合わないことなどが上げられる。

#### ・人件費が減少した理由について

職員の退職や常勤の介護士が育児休業を取得したことで、欠員が発生し、人件費が減少した。欠員した分の業務は、臨時職員を雇用したことや既存の職員が職務を兼任することなどで対応した。

#### ・前年比で事務費及び事業費が減少した理由について

事務費は、令和2年度に事務機器の修繕費が発生しなかったために支出が減少した。事業費は、緊急事態宣言中に短縮営業をしたために電気代が減少したことや、コロナの影響により地域の子育てサロン等が事業を中止したことで車を使用する機会がなくなり、燃料費を抑えられたことで、支出が減少した。また、空調設備が故障したことで、2週間分の調理や掃除の業務委託費が減少したことも理由として上げられる。

#### ・子育て支援センター利用者へのアンケートの方法及びアンケートの結果について

令和2年度の新規講座として父親や祖父母も対象とした「みんなの子育て」を企画した

が、コロナ禍のため内容を変更し、個別に来所いただき、アンケートにご回答いただいた。保育士とコミュニケーションを取りながらヒアリングに近い形で行ったもので、アンケートの内容はお子さんやご家族との関係性を深めるために役立つものとし、アンケートの結果を取りまとめたものは、子育て支援センター内に掲示をし、他の来所者に情報提供した。

#### <質疑応答>

委員：老人デイサービスセンターの大浴場を利用する際は、コロナの感染を防ぐために職員はマスクを着用しているか。

指 定：職員はマスクを着用している。利用者は入浴時にマスクをはずすが、コロナの感染対策は講じている。

委員：人材を増やすには給与が大きな課題と考えるが、市の協力等はないのか。

指 定：事業により職員の給与は異なる。デイサービス事業は扶養の範囲で働く臨時職員が多い。国からの処遇改善加算により、介護福祉士の資格を所有している職員には介護報酬の加算があり、年度末に一時金として支給している。

委員：仕事が大変な割に賃金が見合わないなど、現場の声はあるのか。

指 定：他の事業所の賃金と比較をして応募をしなかった例や処遇面を理由に退職をされた例はあるが、期末勤勉手当や有給休暇を考慮すると他の事業所の条件と比べても大きく差はないと考える。

委員：社会福祉協議会のネームバリューや勉強を目的として就職をするケースは多いのか。

指 定：社会福協議会で社会福祉全体を学びたい思いで募集される方はいる。

委員：老人デイサービスを祝日に休みとしていることは、働き方の配慮だろうか。

指 定：大和市まごころ地域福祉センター条例により日曜と祝日が休みとなっているが、職員にとっては配慮があると考えます。

委員：高齢者と子どもが交流する事業の展望はいかがか。

指 定：コロナ禍以前はレクリエーションを増やしていた。最近では、福きたカフェに来所された方に、親子が作った折り紙やペンダントを渡したところ、受け取られた方にとても好評だった。直接的な交流ではないが、届けるような形等、実施方法を検討していきたい。

#### <評価案についての意見交換>

委員：地域包括支援センターで職員の欠員が発生したため、まごころ地域福祉センターの職員が欠員分の業務を兼任したことで人件費が減少したと説明を受けたが、他にセンター管理事業の支出を抑える工夫はあったか。

所管課：空調設備が故障して通常の営業をすることができなくなった中で、柔軟に対応した結果、人件費を抑えられた点を評価したかったが、表記の仕方は工夫する。

委員：空調設備の故障は約2週間だったが、どのくらいの人件費が削減できたか把握しているのか。

所管課：手元に資料はないため詳細な回答をすることはできない。

委員長：想定外の事態によって勤務日数が減ったために、人件費を削減することができたことは、評価ではないと考えられるため、記載内容を変えた方が良いのではないか。

所管課：この項目は大きく見直す。

委員：評価の視点1に記載している老人デイサービス事業の評価は、コロナ禍でほぼ通常の時と変わらずに事業を継続することができたことを評価したということか。

所管課：コロナ禍で感染者を出さずに、通常通りに運営することができたことを評価した。

委員：評価において、「コロナ禍においてもデイサービスを運営するのか」という市民からの意見をそのままの表現で記載することは避けた方が良い。「徹底した感染予防をする等の工夫をしたことで、通常通り」の文言を付け加え、また、「各種補助金を活用しながら」の文言は不要のため削除する等、文章を少し練った方が良い。

所管課：アンケートでコロナ禍の実施については厳しい意見もあったため記載をしたが、表現を修正する。

委員：もし、その意見を取り入れるのであれば「厳しい意見もあったが」と記載する方が良い。

## 5. その他

事務局より評価の公表について説明。

## 6. 閉会